

放射線科だより



令和5年3月17日
診療放射線科 畑田 瞬

《急性虫垂炎》

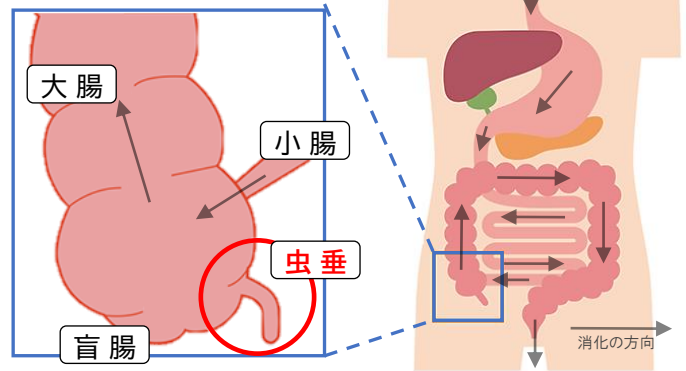
・ 急性虫垂炎（ちゅうすいえん）とは？

緊急手術を必要とする頻度の多い腹部疾患の一つです。一般的に“盲腸（もうちょう）”と呼ばれる病気の正式名称が急性虫垂炎です。

おなかの右下にある大腸の初めの部分を盲腸といいます。その先端から出ている細い管状の部分が虫垂です。この虫垂の内部に細菌が入り込み炎症を起こした状態が急性虫垂炎です。急性虫垂炎の診断が遅れると、虫垂の壁に穴が開き、おなか全体に炎症がおよぶ“腹膜炎（ふくまくえん）”という更に重篤な状態となるので注意が必要です。

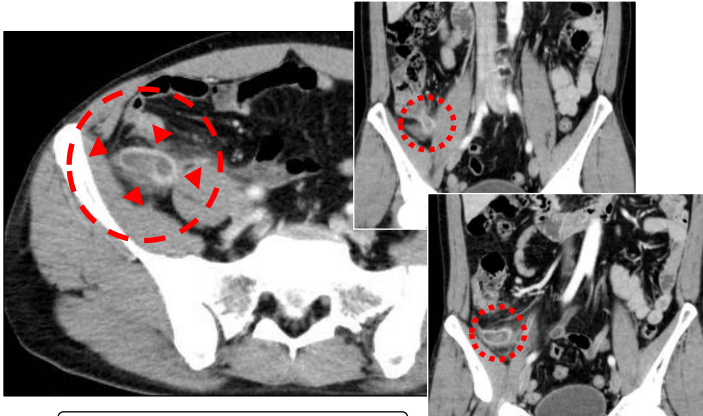
急性虫垂炎の症状

- ・ 腹痛、嘔気、下痢を伴うこともある。
- ・ 初期はおへそ周囲に痛みがでることが多い。
- ・ 徐々に右下腹部に痛みが移動する。
- ・ 時間が経つほど痛みはひどくなる。



・ 検査/診断

まず医師による診察を行います。その後、急性虫垂炎が疑われた場合、腹部の超音波検査やCT検査等で虫垂の大きさ、内部/周囲に膿のたまりがないかどうか、炎症の状態を評価します。CT検査は腹部の内部を細かく観察することができるので非常に有用です。



急性虫垂炎の腹部造影CT

《急性虫垂炎(赤丸)の画像診断》

虫垂の…

- ① 直径が**6mm以上**に拡張
- ② **壁肥厚**、および**壁造影効果増強**
- ③ **周囲脂肪組織濃度上昇**

上記3点がCT画像診断のポイントとなります。

治療法には、抗生剤を用いて炎症を抑える保存療法と、虫垂切除を行う手術療法の2つがあります。